



# BALANCEの適用量についての説明



## Athena® (アテナ) Balance

Balanceは水質を整えpH値を安定させる商品ですが、使用には多少のコツが必要になってまいります。必ずこのガイダンスをご覧ください。使用する水の水質は地域や季節によって異なります。よって、ご使用になる水の水質と施肥スケジュールに基づいて、必要なAthena® Balanceの量を把握することが大事です。BalanceはpH値を上げる働きがありますので、アルカリ性の強い水を使用する場合は、使用量が少なく済みませす。一方、酸性の強い水を使用する場合は、より多くのBalanceが必要になります。必要な量を決定するために、このガイダンスの手順に従ってテストを行ってください。

日本の水道水（軟水）を使用する場合、RO水と比べて肥料を混ぜた後のpH値の下がり方が少ないです。そのため、Balanceの最小推奨値である5ml/Lから始め、その後の状況を見ながら量を調節することをおすすめします。

### Balance使用推奨

	<b>Athena® Balance</b> Balanceにはシリカ（ケイ素）が使用されているため、水質の安定効果以外にも、植物を堅牢にし外的ストレスへの耐性を強める効果があります。Balanceは手動調合、およびDosatron(自動調合機)での使用に適しています。NetaFlex（自動追肥装置）等のシステムでは使用しないでください。
--	---

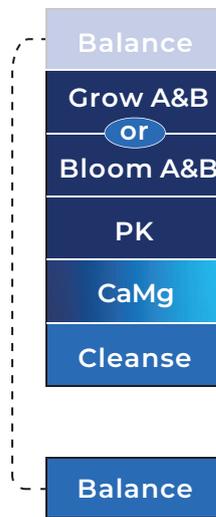
### Dosatron（自動調合機）使用時の手順

<b>1</b> セット	Dosatronユニットの希釈率をBalance使用量（水10Lあたり5~26ml）の中央値に設定します。（これがより正確です）
<b>2</b> On	DosatronのBalanceユニットと、その他の肥料ユニットを稼働させ10リットル程が収まるバケツなどの容器に排出させます。
<b>3</b> 調節	pH値が落ち着いたら、その値を基にBalanceユニットの調合量を増減させ、目標のpH値になるように調節してください。



注意：基本的に肥料はpH値を下げます。よって、バランス適用率は週ごとに変わる肥料の使用量によって異なります。

### 手動で調合する際の手順



#### 調合の順番（テスト用）

タンクで手作業による調合を行う場合、Balanceはいつも最初に加えるべき成分です。ただし、このテストでは最適な使用量を知るために、最後にBalanceを加えてみます。Balanceを後から加えると、時には沈殿や濁りが生じることがあります。これは植物に悪影響を及ぼすものではありませんが、沈殿したものは栄養吸収が効率的に行われないため、通常時はBalanceを最初に加えましょう。テストは、約10リットル以上の水を用意して行ってください。

<b>1</b> 調合	Balanceを混ぜる前に必要な肥料を水に混ぜ、目標となるEC値にしてください。	
<b>2</b> 計量	目標とするpH値に到達するために必要なBalanceの量を測定してください。肥料を混ぜた10リットルの水に対し2ml投入し、よく攪拌してからpH値を計測。希望のpH値になるまで繰り返してください。	
<b>3</b> 記録	目標のpH値に到達するために使用したBalanceの量を記録してください。次回の栽培時に必要な記録ですので、大切に保管してください。	
次のバッチでは、記録した量のBalanceを <b>最初に加えてから</b> 、肥料を混ぜてください。（そうすれば、目標のpH値に達するはずですよ。）		

InstagramでAthenaをフォローして下さい。  
Instagramアカウントは@Athena.Ag\_Japanです。

Instagram @Athena.Ag\_Japan

AthenaAg.com

